

2024年3月19日発行

# 風車

Vol 16



「仁木町の風力発電を考える会」

宮下 洋子

中央の風車は1本のブレードが折れている＝7日午後、石川県志賀町で

「佐藤仁木町長、齊藤余市町長、  
成田古平町長、それでも、風車  
を推進されますか！？」

能登半島地震は「風力発電」にも大打撃、発生直  
後にすべて停止 風車が破損、電源は使用不能に

(2024年3月11日付け『東京新聞』より転載)

石川県能登地方で稼働している73基の風力発電施設全てが、能登半島地震で運転を停止した。本紙の調べで分かった。風車のブレード（羽根）が折れて落下したほか、施設を動かす電源が使えなくなるなどした。半数超で運転再開の見通しが立っており、能登で進む風力発電の大規模な新設計画への影響は避けられない。（大野沙羅）



ブレードが折れた風車＝7日午後0時16分、石川県志賀町で（大野沙羅撮影）

石川県内の風力発電は74基で、うち73基が能登地方にある。地震前に稼働していたのは珠洲市30基、輪島市11基、志賀町22基、七尾市10基の計73基で、最大出力は合計で約13万キロワット。県中央部の内灘町にある1基は2017年から運転を停止していた。



地震で傾いた風力発電の基礎近くにある変電設備＝石川県七尾市で

## ◆ブレードが落ちた…原因は不明

本紙は、能登地方で稼働する全事業者に取材。少なくとも2基でブレードに被害があった。HSE（茨城県日立市）の連結子会社「能登の風」が運営する志賀町富来

地域の風車は、長さ 41 メートル、重さ約 8 トンのブレード 1 枚が折れて一部が地上に落下した。珠洲市では日本風力開発（東京都）の珠洲第 2 風力発電所で長さ 34 メートル、重さ約 6 トンのブレード 1 枚が破損した。いずれも原因は分かっていない。

強い揺れで自動停止したり、施設を動かす電源が使えなくなったりして、運転を停止した施設もあった。

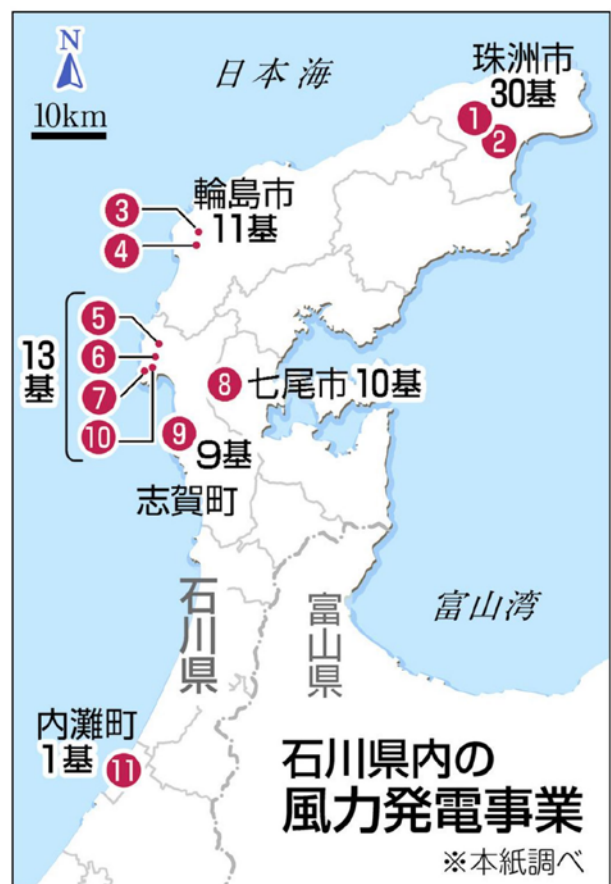
風力発電に関わる有識者らでつくる日本風力エネルギー学会（東京都）の上田悦紀理事によると、大型風力発電施設が地震で大きな被害を受けた事例は少ない。過去の事例は鉄塔や基礎の損傷で、ブレードが損傷した例はないという。

## ◆道路も寸断、近寄れない

珠洲市や輪島市では道路の寸断などで近寄れず、ドローンや望遠カメラでしか被害状況を確認できていない施設もある。輪島市の「輪島もんぜん市民風車」の担当者は「被害の全容がつかめず、運転再開の見通しが立たない」と明かす。2月中に稼働を再開できたのは、日本海発電（富山市）が運転する志賀町福浦港の 9 基にとどまる。

地元住民団体「能登の風力発電を考える会鉾打（なたうち）」は 2 月中旬、七尾市中島町の虫ヶ峰風力発電所にある 10 基を視察。変電設備が傾いたり、発電施設の基礎と地面の間にすき間ができていたりしていたほか、施設に向かう道に亀裂が入っていた。代表の唐川明史さん（77）は「被害は深刻。風車を建てたことで地中や水脈に与えた変化が今後表れるのでは」と話した。

NPO 法人「防災推進機構」理事長の鈴木猛康・山梨大名誉教授は「（施設やその周辺の）安全性が確認できないままでは、土砂崩れのリスクもある」と指摘。「能登半島地震を機に、全国の再生可能エネルギーの計画も調査が





見直されるべきだ」と訴える。

## ◆設置計画の見直しは必至

能登地方では風力発電の設置計画が多い。2月末時点で181基について、工事前に必要な環境影響評価



地割れした風力発電の基礎部分＝2月20日、石川県七尾市で（大野沙羅撮影）

価（アセスメント）の手続きが進む。同じ場所に計画されている施設があり、実際の稼働数はこれより少なくなる見込みだが、最大出力は181基合計で約73万キロワット。単純比較で、志賀町にある北陸電力志賀原発1号機の出力54万キロワットを上回る。

これらの計画に市民団体などは「開発行為で山の保水能力が低下、土砂崩れや川の氾濫を招く恐れがある」などと中止や見直しを求めている。能登半島地震では強い揺れだけでなく津波や地盤隆起、大規模な土砂崩れが相次ぎ、懸念の声が強まるのは避けられない。

石川県によると、事業者がアセスメントを進める場合は地震の影響を確認する予定だが、現時点で見直しを働きかける方針はないという。

（転載以上）

---

## ★災害時に風車は役に立たない事が証明された

施設を動かす電源が使えなくなったりして、運転を停止した施設もあった（『東京新聞』）との事です。やはり、火力発電のバックアップがないと、風車は動かないのです。